

国立大学法人兵庫教育大学

学 報

第412号 平成28年 1 月



平成27年度日本教職大学院協会研究大会を開催
(関連記事7ページ)



第3回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会を開催
(関連記事8ページ)



特別支援教育モデル研究開発室“セミナー・リエゾンIX”
「先生のための貿易ゲーム」を開催 (関連記事9ページ)

目 次

- ◇年頭挨拶.....2
- ◇学 事.....4
 - ・平成28年度大学院学校教育研究科入学者選抜試験 [11月選抜] 合格者状況
 - ・寄附金
- ◇人 事.....5
 - ・人事異動
- ◇諸 報.....6
 - ・国立大学法人兵庫教育大学役員会
 - ・国立大学法人兵庫教育大学教育研究評議会
 - ・兵庫教育大学大学院学校教育研究科・学校教育学部教授会
 - ・兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科運営会議
 - ・兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科代議委員会
 - ・加東市職員と本学職員の交流研修会を実施

- ・平成27年度日本教職大学院協会研究大会を開催
- ・附属幼稚園研究発表会を開催
- ・IR研修会 (第2回) を開催
- ・第3回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会を開催
- ・特別支援教育モデル研究開発室“セミナー・リエゾンIX”「先生のための貿易ゲーム」を開催
- ・ボランティアステーション主催講演会を実施
- ・全学レクリエーション「ボウリング大会」を実施
- ・教職アドバンスト実習成果発表会を開催
- ・兵庫県教員養成高度化システムモデル開発会議を開催
- ◇主要日誌.....11

— 年 頭 挨拶 —



学 長 加治佐 哲 也

皆様、新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

今年の正月は非常に穏やかな天気です。できれば、そういう一年でありたいと思います。しかしながら、これまでもそうでしたが、変化の激しいなかで、いろいろな対応が求められると思います。平成28年は、法人化第2期から第3期へ移行する年にあたります。そういう年にあたりまして、二点ほどお願ひしたいことがあります。

一点目は、法人化第2期の残期間、つまり平成27年度の残り3ヶ月ですが、非常に重要な時期であるということです。

まず、来年度の予算編成があります。年末に、全学教職員会議で上口孝之事務局長から報告がありましたように、来年度の運営費交付金ですが、国立大学全体の総額は、いろいろな努力、とりわけ国会議員への働きかけが実ったんだと思いますが、前年度維持ということになっております。減らなかったということです。

まだ詳細を十分に承知しているわけではありませんが、個別に兵庫教育大学に届いたものを見ますと、いわゆる各大学の裁量で使える一般経費そのものは、増えております。ただ、いわゆる特別経費はかなり減っております。連携GPという補助金をこれまでたくさんいただいていたわけですが、これは、運営費交付金に組み込まれることになってます。ですから、これは計算の仕方にもよりますが、総額そのものは減っているのではないかと思います。

これをどう捉えていくかは、これからまた詳細に分析しなければいけないと思います。しかしながら、運営費交付金は今後変わっていくことだけは間違いありません。ただし、平成28年度については、激変は免れていると言えると思います。今後の分析にもよりますが、このような運営費交付金の状況に基づいた予算編成を行うということです。

それから、ずっとこの間、作成作業を行ってきている第三期の中期目標・中期計画の総仕上げです。原案を1月15日までに作成し、調整後、最終的には3月末には完成ということになると思います。

また、これも毎年のことですが、博士課程、修士課程・専門職学位課程の3月入試、そして学部の入試です。これがかなりの回数あります。これをしっかりと遂行していただかなければいけないということです。とりわけ、大学院の修士課程・専門職学位課程の応募状況や入学手続き状況を見ますと、近年に無い傾向が出ているわけです。それはそれとして、受け止めなければいけません。これからできることは、少しでも受験者を増やす努力をするということになります。

以上のようなことを、是非残り3ヶ月でよろしくお願ひしたい思います。

二点目です。28年度から第3期です。本学の場合は、ご存じのように、学長の任期、また、そのもとの経営陣の任期というのが、第一期、第二期、第三期の“期”と重なっております。従いまして、私ども現経営陣の任期はこの3月までです。4月からは福田光完現副学長が次期学長に、そしてそのもとの、現在副理事である名須川知子先生、米田豊先生が新たに副学長になられますけれども、そういう根幹の陣容は決まっておりますが、3月までに新しい経営陣のもとの運営体制の構築をしなければいけないということです。

私は6年前に学長になりましたけれども、主要な人事を除けば、4月に就任するまで、特に準備はしていませんでした。要するに4月になってから勉強して始まるということでした。ところが、現在の内外環境をみますと、大学経営の空白や中断は許されないと思います。勉強はしないとはいけませんが、就任後、準備期間を置いてから経営に着手するという事は間違っていると思います。

例えば、先ほど申しましたが、大学院の受験者の傾向が変わっているのかもしれないわけです。それに対応しなければいけない。さらに、国の政策の方をみますと、年末に中教審の答申が出まして、教員育成協議会という制度が新しくできます。それに対しても対応しなければいけないわけです。これは、ものすごく大きな取組になります。さらには、学生の出口の教員就職、これも、これまでと違う傾向が間違いなく出てまいります。等々をみますと、即座に取り組むことが必要だと思えます。

新しい学長のもとで経営方針なり、ビジョンなりが出てきます。それを支え遂行する運営体制を3月までに作る必要があると思えます。是非、そういうことも3月までに仕上げるということで福田新学長のもとでの体制づくりに、ご協力をいただきたい。これはこれまでに無かったことだと思えます。つまり4月に準備が始まるのではないということです。3月までに準備をして、4月からは実際に機能するようにしなければなりません。

第2期から第3期への移行の年にあたり、以上の二点をお願いいたしまして新年の私の挨拶としたいと思います。

この一年が兵庫教育大学と皆様にとりまして、良い一年であることを祈念いたします。

どうもありがとうございました。

平成28年1月6日 総合研究棟大会議室にて



— 学 事 —

○平成28年度大学院学校教育研究科入学者選抜試験〔11月選抜〕合格者状況

平成28年度大学院学校教育研究科入学者選抜試験〔11月選抜〕を11月21日（土）及び22日（日）に実施し、12月4日（金）に合格者を発表した。

専攻・コース別の合格者数等は次のとおりである。

課程	専攻	コース		クラス	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数		
修士課程	人間発達教育専攻	教育コミュニケーションコース		昼間クラス	3	4	3	2 (1)		
				夜間クラス	若干人	2 (1)	2 (1)	3 (1)		
		幼年教育コース		昼間クラス	6					
				夜間クラス	若干人	4 (2)	4 (2)	4 (2)		
		学校心理・発達健康教育コース		昼間クラス	6	5 (3)	5 (3)	5 (3)		
				夜間クラス	5	4 (3)	4 (3)	3 (2)		
		臨床心理学コース		昼間クラス	10	31 (4)	27 (4)	10		
				夜間クラス	10	24 (3)	24 (3)	10 (1)		
		特別支援教育専攻		障害科学コース			7	8 (4)	8 (4)	8 (5)
				特別支援教育コーディネーターコース			4	5 (1)	5 (1)	5 (1)
	修士課程	教育内容・方法開発専攻	認識形成系教育コース		社会系教育分野 昼間クラス	10	2	2	2	
					夜間クラス	若干人				
			自然系教育分野 (数学, 理科)		昼間クラス	8	6 (2)	6 (2)	6 (2)	
					夜間クラス	若干人				
文化表現系教育コース			言語系教育分野 (国語, 英語)	昼間クラス	12	3 (1)	3 (1)	3 (1)		
			夜間クラス	若干人	1 (1)	1 (1)	1 (1)			
芸術系教育分野 (音楽, 美術)			昼間クラス	10	1	1	1			
			夜間クラス	若干人	2	2	2			
行動開発系教育コース スポーツ健康系教育分野(保健体育) 応用生活系教育分野 (技術・家庭, 工業, 情報)			昼間クラス	9	11 (2)	11 (2)	10 (2)			
			夜間クラス	若干人	1	1	1			
小計				100	114 (27)	109 (27)	76 (22)			
専門職学位課程	教育実践高度化専攻	学校経営コース		昼間クラス	6	2 (2)	2 (2)	2 (2)		
				夜間クラス	若干人					
		授業実践開発コース		昼間クラス	16	12	11	11		
				夜間クラス	若干人					
		生徒指導実践開発コース		昼間クラス	9	1	1	1		
				夜間クラス	若干人	1 (1)	1 (1)	1 (1)		
		小学校教員養成特別コース			15	8 (1)	7 (1)	7 (1)		
		教育政策リーダーコース			5	4 (4)	4 (4)	3 (3)		
グローバル化推進教育リーダーコース			5	2 (2)	2 (2)	2 (2)				
小計				56	30 (10)	28 (10)	27 (9)			
合計				156	144 (37)	137 (37)	103 (31)			

- (注) 1. 志願者数及び受験者数は、第1志望によるものを示す。
 2. () 内の数は、3年以上の教職経験を有する現職教員(同意書無しを含む)を内数で示す。
 ※教育行政リーダーコースにおいては教育行政職員を含む。
 3. 合格者欄は、第2志望による合格者を含む。

○寄附金

寄附申込者	研究担当者	寄附の目的	金額（円）
日本たばこ産業株式会社 渉外企画室喫煙科学担当部長 中野浩明	人間発達教育専攻 准教授 中間玲子	中間玲子准教授の学術研究助成のため	867,400
兵庫教育大学附属小学校 育友会 会長 高瀬久史		兵庫教育大学附属小学校の教育研究の振興・充実のため	2,100,000

— 人 事 —

○人事異動

1. 大学教員等

(1) 退職

平成27年12月31日付

元 職	氏 名	備 考
特命助教（教員養成高度化システムモデル 開発推進室）	寺 町 晋 哉	

2. 事務職員

(1) 採用

平成28年1月1日付

職 名 等	氏 名	備 考
研究支援課図書事務室事業支援協力員	千 古 幹 治	
財務課経理チーム事務補佐員	小 寺 晋 輔	
教育支援課教務チーム事務補佐員	石 田 美 香	

— 諸 報 —

○国立大学法人兵庫教育大学役員会

第15回 平成27年12月9日(水)

(議題)

- 1 平成28年度年度計画作成WGの設置について

○国立大学法人兵庫教育大学教育研究評議会

第11回 平成27年12月9日(水)

(議題)

- 1 教員の選考について
- 2 教員の選考開始について
- 3 大学院学校教育研究科〔修士課程〕の授業科目区分及び履修方法等について
- 4 平成29年度入試日程について
- 5 平成28年度授業暦について

○兵庫教育大学大学院学校教育研究科・学校教育学部教授会

第6回 平成27年12月2日(水)

(議題)

- 1 平成28年度大学院学校教育研究科入学者選抜試験〔11月選抜〕の可否判定について
- 2 平成28年度大学院学校教育研究科入学者選抜試験〔3月選抜〕の学生募集人員について

第7回 平成27年12月9日(水)

(議題)

- 1 教員候補者についての意見の取りまとめ
- 2 平成27年度論文審査委員会委員候補予定者について
- 3 大学院学校教育研究科〔修士課程〕の授業科目区分及び履修方法等について
- 4 平成28年度授業科目の新設改廃等について
- 5 平成28年度教育政策リーダーコース及びグローバル化推進教育リーダーコースに係る開設授業科目等について
- 6 大学院学校教育研究科新設科目に係る修了要件及び課程認定の申請について
- 7 外国人研究生の選考について

○兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科運営会議

第4回 平成27年12月2日(水)

(議題)

- 1 平成27年度年度計画実績評価票の作成について

○兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科代議委員会

第7回 平成27年12月2日(水)

(議題)

- 1 論文提出による博士の学位論文審査委員会の設置について
- 2 論文提出による博士の学位論文の受理及び学位論文審査委員会の設置について
- 3 博士候補認定試験の実施について

○加東市職員と本学職員の交流研修会を実施

11月12日(木)と12月17日(木)の2日間、総合研究棟大会議室と教育子午線ホールにおいて、全2回の加東市職員と本学職員の交流研修会を実施した。

本研修は、地元自治体の職員と交流を行うことにより、大学の将来を担う若手職員の知見を深めることで、若手職員の人材育成を図ること、加東市と大学のネットワークを更に広げていくことを趣旨としており、加東市職員10人、本学職員10人が受講した。

今年度の研修は「市民・学生にとって暮らしやすいまちにするために、どのような工夫・改善が必要か」をテーマとしてフィールドワークを行い、結果をまとめプレゼンテーションを行うという形式で行われた。

第1回研修では、加東市職員2人、本学職員2人の混合班に分かれ、自己紹介のあと、認識形成系教育コースの吉本剛典教授がフィールドワークの方法についての講義を行った。各班の個別テーマの検討・決定を行ったあと、第2回研修までの間に各班でテーマに沿って学生や加東市民等への聴き取り調査等のフィールドワークを実施した。

第2回研修では、各班によるプレゼンテーション及び加東市の大西洋隆総務課長、本学の原田敦子総務課長、吉本教授による講評が行われた。

受講者からは「交流を通して双方の強みや弱みを認識することができた」、「今回の研修で学んだことを、大学の発展に活かしていきたい」等の意見があり、意義のある研修となった。



○平成27年度日本教職大学院協会研究大会を開催

12月5日（土）、6日（日）の2日間、日本教職大学院協会（会長：加治佐哲也本学学長）は、一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）において、日本教職大学院協会研究大会を開催した。

研究大会の初日は、分科会①「実践研究成果公開フォーラム」を開催し、常葉大学、宇都宮大学、上越教育大学、愛知教育大学、京都教育大学、大阪教育大学及び宮崎大学の7校が4箇所で開催で、教職大学院における実践的な教育・研究の成果等について発表を行った。

当日は文部科学省、教職大学院関係者、教育委員会関係者、学校関係者など約280人の参加があり、各大学による発表の後、活発な意見交換が行われた。

研究大会二日目は、全体会と分科会②「ポスターセッション」が行われ、約340人の参加者のもと、全体会では、加治佐哲也会長の挨拶及び出口利定日本教育大学協会会長、中井敬三全国都道府県教育長協議会会長の来賓挨拶により開会した。その後、常盤豊文部科学省高等教育局長による「高等教育政策の諸動向について」と題した基調講演が行われ、続いて、森次郎文部科学省大学振興課教員養成企画室室

長補佐から、教員養成改革等に関する情報提供が行われた。

午後からは、米田豊協会事務局長（本学副理事・教授）をコーディネーターとして、立花正男氏（岩手大学大学院教授）、久保田善彦氏（宇都宮大学大学院教授）、長崎伸仁氏（創価大学大学院教職研究科長・教授）、三輪佳見氏（宮崎大学大学院教授）、並びに山内敏男氏（愛知県豊川市立音羽中学校教諭）の5氏をパネリストに迎え「教職大学院における教科教育の在り方を探る」をテーマとして会場を交えた活発な討論が行われた。

パネルディスカッション終了後は、本図愛実氏（宮城教育大学大学院教授）から独立行政法人教員研修センターとの連携協力に関する取組事例の報告、米田協会事務局長から教職大学院の成果検証に関する報告、勝山浩司氏（一般財団法人教員養成評価機構理事）から今後の教員養成評価機構における認証評価事業の在り方について報告が行われた。

また、同会場の特別会議室においては、27の教職大学院から、優れた学修成果をあげている教職大学院学生や修了生が、ポスターセッション形式により発表を行い、多くの参観者のもと発表者との間で活発な質疑を行う様子が見られた。

研究大会終了後には、情報交換会を開催し、文部科学省からは森次郎大学振興課教員養成企画室室長補佐及び伊野哲也初等中等教育局教職員課教員免許企画室室長補佐をはじめとして、多くの関係者が参加し、終始和やかな雰囲気の中で活発な交流が行われ、拡充期を迎えた教職大学院の更なる発展に期待を寄せつつ閉会した。



○附属幼稚園研究発表会を開催

12月5日(土)、附属幼稚園において、研究発表会を開催した。県内外から100人余りの参加者があり「協同性を育て道徳性・規範意識の芽生えを培う指導の在り方」を研究テーマに、午前中の公開保育、午後の研究発表を通して、参加者と共に理解を深めた。

また、田園調布学園大学大学院人間学研究科子ども人間学専攻教授、東京大学・青山学院大学名誉教授、公益社団法人信濃教育研究所所長の佐伯胖先生による「子どもを人間としてみるということー子どもとともにある保育の原点ー」と題する講演会は、どのように子どもを見て、関わるかについて、非常にわかりやすく参考になる内容であった。



○IR研修会（第2回）を開催

12月7日(月)、総合研究棟大会議室において、福岡教育大学戦略企画室の清水紀宏室長及び塚本憲司氏を講師に招いて、IR研修会（第2回）を開催した。

第2回の今回は「福岡教育大学でのIRの現状について」と題し、福岡教育大学におけるIR活動の状況について講演が行われた。

研修会では、福田光完副学長の挨拶のあと、清水室長から各大学にはそれぞれ独自の文化があるので、他大学の活動を参考に「自大学が何をしたいか」を明らかにしないとIRは機能しない旨の講演が行われ、続いて、塚本氏から福岡教育大学におけるIR活動の創成期から現在に至るまでの活動や事例等につ

いて講演が行われた。

また、講演後の質疑応答では「分析力向上」や「データの利用」、「日常業務」などについて意見交換が行われ、研修会のアンケートではIR活動における教職協働やデータの可視化についての感想が寄せられた。

今回の研修で福岡教育大学でのIR活動の取組や課題を伺うことで、本学IR活動を推進するために取り組むべき課題も明らかになった。



○第3回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会を開催

12月7日(月)、教育子午線ホールにおいて、FD推進委員会主催による第3回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会を開催し、約50人が参加した。

このたびの研究会は、本学学生・教職員を対象として、平成26年度ベストクラスに選定された授業の1つを公開することによって、授業改善のアイデアや手法等の情報を共有し、本学における教員相互の「授業研究」の場として、個々の教員、及び、大学全体の授業改善を推進することを目的に、公開授業、及び、授業研究会の2部制で実施した。

まず、平成26年度ベストクラスの1つである「生徒指導論（進路指導を含む）」(学部3年次開講、担当教員新井肇教授、履修者173人)が公開された。大規模な講義形式の授業の中で、受講生一人ひとりが活発に思考できる仕掛けが用意され、深い学びへとつながっており、まさに「アクティブ・ラーニング」が展開された。

公開授業終了後、引き続き実施した授業研究会には、受講生7人も参加し、授業者の意図や手法がどのように共有されていたのかなど、生の意見を聞くことができ、その後の全体討論では活発な意見交換が行われた。

参加者からは「大人数の授業、動きに制限のある教室でも『学び合い』が可能であることに驚きました」、「アクティブ・ラーニングの捉え方が大変よく分かりました」、「学んだアクティブ・ラーニングを学校現場に帰ったときどのように授業化していくか参考になりました」、「今後もこのような活動が継続して行われることを期待しています」などの声が寄せられ、今後の本学におけるFD活動を推進するうえで、有意義な研究会となった。



○特別支援教育モデル研究開発室“セミナー・リエゾンIX”「先生のための貿易ゲーム」を開催

12月9日(水)、附属図書館ライブラリーホールにおいて、キャリアコンサルタントの柴田朋子氏(JUNO代表)を講師に迎え“セミナー・リエゾンIX”「先生のための貿易ゲーム」を開催した。

今回は学内外から35人の参加があり、参加者は5つのグループ(仮想の国)に分かれて貿易ゲームを行い、どの国が最もお金を儲けられるかを競った。これは、同じ国の仲間と協力したり、他国と交渉するなど、コミュニケーション力が必要とされるワークショップである。

ゲームのあとには、グループ毎にそれぞれのコミュニケーションについて振り返り、講師からの的確なコメントを受けた。参加者からは「ゲームと振り返りを通して自分のコミュニケーションスタイルに気

づき、学校現場でどう活かすかについて考える機会となった」等の意見も聞かれ、刺激的で盛況なワークショップとなった。



○ボランティアステーション主催講演会を実施

12月9日(水)、児童養護施設「立正学園」指導員柴田佳織さん(本学卒業生)を招いて「立正学園のこどもたち」と題したボランティアステーション講演会を実施した。学部生及び大学院生、関係者を含め45人の参加があった。

講演会では、児童養護施設の子どもたちの日常の様子や子どもたちをとりまく現状が話された。特に子どもの6人に1人が貧困と言われる現代社会において、教育と福祉の連携が重要であり、学力保障がいかに子どもたちの自立支援につながるかが、最前線の現場の声として学生たちに伝えられた。最後の質疑応答では、自分たちの問題として学生が捉え、積極的に質問している様子が印象的であった。

参加者からは「貧困は連鎖していて、それを断ち切るには、やはり学力が必要だということを感じた」や「子どもたちには当たり前な生活、自分に寄り添ってくれる人が必要であることを実感できた」、「お小遣いをもらったり友だちを施設に呼ぶなど、子どもにとって当たり前のことをする場所が、児童養護施設なんだと初めて知った」等の感想が聞かれた。

学生たちにとって「施設での日常の当たり前の生活」から学習支援を通して自立支援へとつなげていきたいという指導員の願いを感じるとともに、今後ボランティア活動を通して子どもたちへの関わり方やこの問題に関して一人の人間としてどう取り組んでいけばいいのかを考える大変良い機会となった。



○全学レクリエーション「ボウリング大会」を実施

12月15日（火）、社スポーツレーンにおいて、全学レクリエーション行事の一環として、ボウリング大会を実施し、大会には20チーム、100人の参加があり、熱戦が繰り広げられた。

なお、今大会の成績は次のとおりである。

（団体の部）

- 優 勝 学長他混成チーム（トップガン）
（加治佐，上口，森，沼田，大西）
- 準優勝 福本研究室チーム（チームじゅんいち）
（福本，筒井，森山，永田，加藤）
- 第3位 企画課Bチーム
（谷林，井上，近都，宮脇，池田）

（個人男子の部）

- 優 勝 上口 孝之（事務局）
- 準優勝 有吉 克哲（附属小学校）
- 第3位 井上 裕貴（企画課）

（個人女子の部）

- 優 勝 小林 祐子（特別支援教育モデル研究
開発室）
- 準優勝 永田 智子（教育実践高度化専攻）
- 第3位 大塩 由季（附属中学校）



○教職アドバンスト実習成果発表会を開催

12月18日（金）、神戸ハーバーランドキャンパスにおいて、教職アドバンスト実習成果発表会を開催した。

これは、文部科学省の平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」に選定された連携取組「教員養成高度化システムモデルの構築・発信」における平成27年度の取組として実施しているものであり、連携大学に所属する学生（現職教員を除く）を対象に、実習を主体としたカリキュラムをとおして、教員として必要な高度な専門性と実践的指導力を身につけることを目的としている。

当日は、実習でお世話になった学校・教育委員会関係者の他、文部科学省、当連携事業に関わる大学関係者等45人が見守る中、平成27年度の受講生9人（本学大学院生6人、武庫川女子大学大学院生3人）が、教員免許取得のための教育実習の経験を踏まえ、課題意識を持って上記実習に参加し、更にその経験を省察した成果をまとめ、発表を行った。

来場者からは「学部実習と大きく異なる点は『本気で教員を目指す』ということ。教員養成という点で、大きな意味がある。今後の教員養成のあり方に大きな影響を与える実習だと思います」といった声が寄せられた。



○兵庫県教員養成高度化システムモデル開発会議を開催

12月18日（金），神戸ハーバーランドキャンパスにおいて，大学間連携共同教育推進事業「教員養成高度化システムモデルの構築・発信」に参画する連携大学の学長及び兵庫県，神戸市教育委員会関係者等の委員の他，文部科学省初等中等教育局教職員課教員免許企画室の山下恭徳室長の出席のもと，兵庫県教員養成高度化システムモデル開発会議を開催した。

会議では，冒頭に山下室長から「現在の教員養成改革の動向」と題して，中央教育審議会答申及び平成28年度予算について情報提供が行われ，教員養成に係る政策動向と展望について解説された。

引き続き，当事業による取組状況について，活発な意見交換等が行われ，教員養成について教育委員会と大学との連携・協働への積極的な取組が求められる中でモデルとなる当事業の成果と課題が確認される有意義な会となった。



— 12月主要日誌 —

月 日	事 項
12月1日(火)	大学院学校教育研究科入学試験委員会(第8回) 学校教育学部入学試験委員会(第4回)
2日(水)	研究科・学部教授会(第6回) 社会連携委員会(第2回) 連合学校教育学研究科運営会議(第4回)

	連合学校教育学研究科代議委員会(第7回) 研究推進委員会(第3回) 学生委員会(第6回) 附属中学校1年生校外学習
4日(金)	平成28年度大学院学校教育研究科入学者選抜試験[11月選抜]合格者発表 附属小学校第36回マラソン大会
5日(土)	日本教職大学院協会研究大会(～6日) 附属幼稚園研究発表会
7日(月)	IR研修会(第2回) アクティブ・ラーニング研究会(第3回) 附属図書館運営委員会(第4回)
8日(火)	大学情報委員会(第1回)
9日(水)	役員会(第15回) 教育研究評議会(第11回) 研究科・学部教授会(第7回) 評価委員会(第3回) 特別支援教育モデル研究開発室“セミナールリエゾンIX”
12日(土)	日本文化研修旅行(～13日)
15日(火)	学校教育学部入学試験委員会(第5回) 全学レクリエーション「ボウリング大会」
17日(木)	加東市職員と本学職員の交流研修会 附属幼稚園クリスマス会
18日(金)	教職アドバンスト実習成果発表会 兵庫県教員養成高度化システムモデル開発会議 附属中学校2年生校外学習
19日(土)	連合大学院学生研究発表会(～20日)
24日(木)	企画運営会議(第6回)
25日(金)	全学教職員会議(第3回) 大学院学校教育研究科教務委員会(第9回) 学校教育学部教務委員会(第9回)

編集発行 **兵庫教育大学総務部総務課**
〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1
電話 (0795) 44-2431
<http://www.hyogo-u.ac.jp/>